

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 3月31日

事業所名 児童発達支援センターきらり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・利用人数が多数の場合、適切な人数にグループ分けを行っている。 ・集まりや遊びの時間を2グループに分けて活動している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		適正に人員を満たしています。(児童発達支援管理責任者1名、保育士2名、児童支援員2名)	・職員配置についての説明は契約時に行っています。保護者説明会の機会を定期で設ける等、更なる方策を検討していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・活動する場所を分かりやすく構造化している。 ・視覚的な支援にて、分かりやすく伝達するようにしている。	・一人ひとりの特性や状況に合った環境の工夫に向けて職員のスキルアップを目指す。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・活動ごとに部屋を移動するなどしている。 ・清掃を徹底し心地よく過ごせるよう努めている。	今後も心地よい空間づくりに努めていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		・定期的に支援会議を開き、個別支援計画の作成に係る検討及び計画に対する評価を行うと共に日々の療育の中で振り返りの時間をとり、次に繋げる努力をしている。	・会議の時間を工夫して取り、短時間で内容の濃い会議ができるよう、日頃の支援に対しそれぞれのスタッフが課題意識をもって取り組んでいくよう努める。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・半年ごとに保護者へ満足度を聞くようにしている。また年度末には評価シートを配布し、ご意見を頂いている。	・個別療育等において、保護者の思いを丁寧に聞き取り、課題を共有しながら取り組んでいる。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		・職員全員で事業所評価について意見交換し改善点についても協議している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	・ホームページやline@などにより活動状況を発信し、多くの方からご意見を頂けるよう工夫している	・第三者評価による外部評価について、当法人で検討中
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・子ども総合療育センターと連携し定期的に研修会を開催すると共に、関係機関との連携により内部研修等を実施している	・心理士や療法士の方々との勉強会など、今後も積極的に計画していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		・ニーズや課題の整理を行い色々な角度から情報を収集するようにしている。 ・児童相談支援事業所と情報共有を図り、利用児の生活歴や保護者の思いなどを十分把握するよう努めている。	・相談支援事業所や保育園・幼稚園等との共通認識を持つために、更なる連携に努めていきたい。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・使用しています。(フェイスシート、チェックリスト、現在の状況と保護者ニーズ記入表)	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援ガイドラインに基づき、各分野における支援を行うため、一人一人の特性に合った支援計画を策定し支援を実施している。	・支援の見立てを丁寧にを行うために支援会議を定期的に開催している。具体的な支援内容について、心理士からも助言頂いている
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		・支援計画に沿って、利用児各々に日々の活動における目標設定を行いその日のうちに振り返りを行うよう努めている。 ・日々のスタッフミーティングの中で、活動における支援方法について具体的な関わり方を検討し、共有するよう努めている。	・療法士(PT、OT、ST)等より助言を頂き、支援に活かしている。今後も継続して取り組んでいきたい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・月初めに活動計画と週初めに活動の打ち合わせを行っている。 ・スタッフ間の情報共有の徹底に努めている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・年齢別や特性など個々の目標に合わせて内容を工夫している。 ・季節の活動を入れたり、施設外の活動を計画するなど工夫している。	
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・個別療育における机上課題への取組やグループ療育における集団遊び、感覚統合プログラム等を計画に織り込んでいる。	・グループ療育で見える課題等について個別療育で丁寧に支援していく。	

関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・前日に打ち合わせを行い、「その日の振り返り」と「翌日の支援内容の確認及び役割分担」などを行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・気づいた点、反省点等を職員全員で共有し、次回の療育支援に繋げている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の支援記録を取り、モニタリングに繋がると共に、保護者に対しても情報提供し家族支援、家庭との連携に努めている。	・変化があったことを附箋に書いて貼り付けモニタリングに活かしていく。
	20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・6ヶ月に1回行っている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・児童発達支援管理責任者と担当スタッフが参加している。	・今後も継続して担当者会議の充実に向け取り組んでいきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		市町村保健師や保育園・幼稚園等の支援者と情報共有し、連携した支援に努めている。	・今後も関係機関と連携し、顔の見える関係づくりに取り組んでいきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・保育所等訪問により、支援計画の説明を行い、情報共有と共通理解を深めている。 ・保育所等訪問支援時や送迎時に利用児の活動状況等を共有している。 ・療育センターとの連携により早期に移行支援に対応できている。	・地域で安心して生活できるよう、継続して関係機関との連携に努めていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・サポートブックを保護者と共に作成し、保護者を通して提供していただいている。 ・サポートブックの内容の共通理解や、その後の様子等の連絡を取り、把握することも大切だと思う。	・保護者や学校との連携を図り、意見をしっかりと聞きながら、継続して有効な支援を行ってきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		・子ども総合療育センターの地域支援班の助言を受けている。 ・通所事業所連絡会議開催により情報共有や助言の場ができた。	今後も児童発達通所事業所の連絡会議を継続し、課題等に対し皆で意見交換をしていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		・外出先で他園児と会った時には挨拶をお互いで交わしている。 ・家族療育により、兄弟、姉妹、他家族との交流を行っている。 ・地域食堂の利用児と交流している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・療育相談員と同行し、子育て会議に参加している。	・阿蘇圏域においても自立支援協議会の充実に向け意見交換していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・単独療育においては連絡帳の利用、個別では振り返りの時間を設け状況を伝えあっている。必要時には電話で様子を伝えられている。 ・個別療育を積極的に利用して頂き、園や家庭での様子を把握し様子を伝え共通理解している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・家でお子様の状況を伺いながら、家庭における支援の方法等について提案している。 ・個別療育時に振り返り、保護者の相談に対応し、助言を行っている。	・家族療育にて、その都度、子どもの関わり方について援助等を行っている。次年度は保護者支援についての研修を実施予定。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・契約時に説明を行い、同意を頂いている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・具体的な目標を入れ生活の場で取り組み出来る支援内容等わかりやすい文章にしている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・個別療育利用時に行っている。単独療育時は随時連絡帳を通して行っている。 ・家族療育では、保護者同士の相談、意見交換の場としても活用していただいている。	

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・今後の課題として検討・協議していきたい。 ・現在は月1回の家族療育の場を活用している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・個別療育や家族療育の場を利用し日頃の療育において、保護者の相談やご意見を伺っており、改善等が必要な場合は速やかに対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・毎月、お便りの発行を行っている。 ・月1回、お便りを発行し行事や活動の内容をのせ活動の様子をラインで発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		十分注意し、関係機関に提供するときは事前に保護者等より同意を得ている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		・視覚的支援等、配慮している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		・民生委員への協力を依頼。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		・地震、火災訓練等、毎月1回実施している。 ・年2回は消防署に来ていただき総合訓練を行っている。	・今後も地域の方々の理解を得ながら、継続して取り組んでいく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		・該当者なし。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	・日々の振り返りや定期的支援会議において、事例の共有・検討は行っている。	・今後、事例集としてまとめる取り組みについて検討し、事故防止に努めていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		・毎年内部研修会を開催している。 ・利用児の状況に常に注意をはらって園との情報共有を行っている。	・気づきがあった時、速やかに報告できる体制を築き、適切な対応をしていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		・該当者なし。 ・飛び出し等、危険性を伴う児について保護者との情報共有、状況説明等を行い、記載をするようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等向け

児童発達支援評価表

公表：令和 2年 3月31日

18件配布中、11件回収

事業所名 児童発達支援センター
きらり

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか。	11				・十分だと思います。	
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか。	9	2			・個別療育後、プレイルームで友達の中に入ると会話がなかなか進まない。タイヤブランコの周りに下の子が近づいた時、別の職員さんがついていないと怖い。下の子はなるべく連れて行かない様にはしているが難しい時もあるので職員さんを付けてほしい。 ・日頃より、良いアドバイスを頂いております。	基本的には利用児の兄弟さんへの関わりは保護者の方をお願いしていますが、自由遊びの中では、全体的に支援をしています。今後も事故防止に十分配慮し対応していきたいと思っております。
	3	生活空間は、本人に分かりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか。	11					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	11					
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか。	11					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	1				
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか。	10	1			・日頃よりしっかりと支援をして頂いています。	
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか。	9	2				
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか。	7	2		2		今後地域や関係機関と連携しながら、交流の機会を作っていきたい。
保護者 への説明 等	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか。	11					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか。	10	1				
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）が行われているか。	8	2		1		家族療育等において家庭でのかかわり方について援助等行っています。次年度は保護者支援に向けてスタッフ研修会も予定しています。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解が出来ているか。	10	1			・出来ております。	
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか。	10	1				
	15	父母の会や活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか。	7	2		2		家族療育や行事等において連携の場を設けているが今後保護者の会等の立ち上げに向け検討を行ってまいります。
非常時 等の 対応	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか。	9	1		1		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか。	10	1				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の除法や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか。	1			2		・月1回のお便りやline@で行事や活動の内容を載せています。
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか。	11					
非常時 等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	6	2		3		各種マニュアルについては整備し職員間の共有も図っているところです。今後防災訓練のみならず、他の分野における訓練等も充実していきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか。	5	2		4		月1回の防災訓練を実施しています。
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか。	10	1			・とても楽しみにしています。	
	23	事業所の支援に満足しているか。	11				・大変満足しております。感謝致します。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年3月31日

事業所名: のびのびハウス

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			基準は十分満たしている。活動目的に合わせて、定員10名がゆっくり活動出来る指導訓練室、座って活動出来る和室、感覚統合活動や自由遊びが行える部屋を使用している。	なし
	2	職員の配置数は適切である	○			基準を満たしている。3名以上の児童指導員または保育士、送迎の支援員を確保している。	なし
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			玄関から施設内の移動は浴室・和室を除き、全て段差をなくしている。車いすでも使用できる多目的トイレがある。	なし
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			午前中に前日の振り返りをスタッフ全員で行っている。また、午後からは送迎の支援員も交えて、当日の療育打ち合わせ、目標設定を行っている。	他スタッフからの意見等発言が少ない場面もある為、スタッフ皆が意見交換しやすいようにミーティングを見直したい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○			評価表の内容についての説明不足や不明点について、保護者に説明が出来ていない部分がある。今後、保護者十分説明を行い、意見も頂きながら改善につなげていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページに公開している。	なし
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		第三者評価は受けていない。現在、当法人で検討中である。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			外部研修に職員が年1回は参加している。	施設内研修を充実させて、スタッフのスキル向上につなげていきたい。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している		○		ニーズ表を保護者に書いて頂き、児童の課題について整理しながら計画の作成を行っている。	児童からの聞き取りが不十分な為、出来るだけ児童からの聞き取りやアセスメントを十分にしたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			事業所独自のアセスメントツールを使用している。(フェイスシート・ニーズ表・チェックリスト等)	アセスメント項目の見直しを行いたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている		○		活動プログラムの担当スタッフが日ごとのプログラムを作成し、児童発達支援管理責任者が確認を行っている。午後からの打ち合わせ時に、全スタッフと確認する。	行事計画は各担当スタッフが立案し毎月のスタッフ会議時に話し合うが、日ごとの主活動の立案についても検討出来るようにしていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			毎回、異なる施設内・施設外の活動を行って	なし
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○			平日・休日・長期休暇に分けて設定はしていないが、活動によって内容を工夫したり、施設外活動を計画し長期休暇でしかできないことに取り組んだりしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動は、ほぼ毎日おこなっている。個別活動も数種類毎日行っている他、個別療育時に児童の課題を取り出して机上課題を行う等の取り組みを計画に入れている。	なし
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			当日の活動リーダーを中心に毎日実施している。主活動の内容、スタッフ配置、活動プログラムの流れ、支援の内容の確認等を行っている。	なし
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			送迎に出ている事や早出のスタッフがいる時もある為、療育終了時の振り返りは出来ていない。翌日の午前中に、前日の振り返りを全スタッフで行っている。	なし

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録用紙を改善し、児童の目標や活動の狙いを分かりやすくしている。 療育中や終了時に記録が取れない事もあるため、記録が取れなかった場合は翌日に記録を取る様にしている。	なし
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		モニタリングを行っているが、大きな計画の見直しは行えていない。 モニタリングの内容を職員で検討し、次の見直しに繋げていき
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		体験的活動(創作・自然体験・地域生活体験・地域交流活動)、自立支援活動、感覚統合活動等、様々な活動を行っている。	なし
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が主に入っているが、児童の担当スタッフも一緒に参画を行う様にしている。	なし
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校との情報共有は必要に応じて行っている。 新年度には各学校を訪問し、支援クラスの先生と送迎の打ち合わせを行っている。 (新年度の利用児の確認、送迎時の引き渡し場所の確認など)	なし
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		登録喀痰吸引等事業者として登録を受けており、連絡体制は整えている。	なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	就学前に利用していた保育園等との情報共有は行えていない。 児童発達支援事業所については、情報共有を行っている。	なし
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		今年度学校を卒業した児童はいたが、移行の際の情報提供の依頼はなかった為、行っていない。 必要があれば、サポートブック、情報提供書の作成・提供を行
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			なし
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		行っていない。 長期休み等で機会を設定できるか検討したい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		参加依頼がない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳に児童の様子を記入したり、送迎時に保護者へ伝えている。	児童の発達状況・課題について共通理解が深められる様に、個別療育の機会を増やし、更に保護者と情報共有が出来る様にした。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		個別療育や行事等家族と懇談する機会に子どもへ関わり方などの助言を行っている。 ペアレント・トレーニングの研修を検討したい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に行っている。	なし
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		個別療育時に保護者から相談を受け、助言や支援を行っている。 電話や送迎時に相談があれば助言を行ったり、話し合いの場を設ける。	なし
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現在、保護会等は立ち上がっていない、今後検討していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		体制の整備は出来ている。 苦情受付担当者も設けており、事業所の玄関に苦情受付ボックスを設置している。	なし
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月のお便りを発行しており、またSNSのLINE@でも活動状況や行事予定等を発信している。	なし

	35	個人情報に十分注意している	○		お便りやSNSでの情報発信の際は、児童の顔を加工し個人特定が出来ないようにしている。	なし
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		日本語の理解が難しい保護者には、漢字を使わず、ひらがなで連絡帳を記入したり、直接書面をみせながら説明を行っている。	なし
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		事業所の行事ではないが、法人全体の行事として行っている。	なし
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアルの整備を行っており、マニュアルの提示を行っている。	マニュアルはあるが、保護者への周知は出来ていない。今後、マニュアルの配布・説明等を保護者へ行うことを検討したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		2か月に1回ほど、児童と一緒に訓練を実施している。防犯訓練も行っている。	なし
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年1回以上は施設内研修を行っている。	なし
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在、該当する児童がいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		初回利用前に、保護者聞き取り時に確認を行っている。	現在、該当する児童がいない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット案件があった際は、スタッフと話し合いの場を設ける。ヒヤリハットの書類を作成し、回覧を行うまたは打ち合わせ時に他スタッフと共有をしている。	今後事例集の作成を検討していきたい。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

公表：令和2年3月31日

事業所名：のびのびハウス 保護者等数(児童数) 26名 回収数:15名分 割合 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いい え	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13名	2名	0名	直接すべての部屋を見た事が無いのでわからない。	個別療育や行事等の機会を利用して事業所内の見学を行いたい。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	7名	8名	0名	もう少し言葉かけや助言が欲しいと思う時がある。活動の様子を見学した事があまりない為分からない。	事業所内の見学・説明を行いたい。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12名	3名	0名		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	11名	4名	0名		
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	13名	2名	0名		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	3名	8名	4名		学校や地域と連携し交流の場を検討していきたい。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	13名	2名	0名		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10名	5名	0名	もう少し言葉かけや助言が欲しいと思う時がある。	連絡帳や送迎時の際のお伝えの他に、個別療育時の振り返りの時間やご要望があれば面談の場を設けて、保護者の方との情報共有や、相談助言が行えるよう努めていきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	9名	6名	0名	もう少し言葉かけや助言が欲しいと思う時がある。	
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2名	7名	6名		家族療育や行事等において連携の場を設けているが今後保護者の会等の立ち上げに向け検討を行っていきたい。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9名	6名	0名		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	11名	4名	0名	もう少し言葉かけや助言が欲しいと思う時がある。	連絡帳の記入内容等の見直しを行っていきます。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10名	5名	0名		
14 個人情報に十分注意しているか	14名	1名	0名			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	5名	8名	2名	細かい点を聞いた事が無い。	今後、マニュアルの配布・説明等を保護者へ行うことを検討したい。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7名	8名	0名		
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	12名	3名	0名	毎回、今日は何をしたと楽しかった事を話してくれています。	
	18 事業所の支援に満足しているか	11名	4名	0名	・このようなセンターがある事また、スタッフの方も親切なので感謝しています。 ・疑問に思っている事や相談等すぐに対応してくれるので	

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。